



2023年04月 第21巻 第4号

かく語りき—聖人の言葉

このマーヤー、すなわちエゴとは、雲のようなものだ。太陽は雲の薄い覆いがあると見えないが、雲が消えると見えるようになる。グルの恩寵によってエゴが消えれば、そのとき人は神を見る。

…シュリー・ラーマクリシュナ

祈りを習慣にする人は、全ての困難を容易に克服し、人生の試練の真ただ中でも、落ち着いて動揺しないでしょう。

…シュリー・サーラダー・デーヴィー

今月の目次

- かく語りき—聖人の言葉
- お知らせ
- 2023年3月19日 シュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀会 午後の部 「シュリー・ラーマクリシュナ 師の中の大師」 スワミー・メーダサーナンダ

- 訃報
- 忘れられない物語
- 今月の思想

お知らせ

各プログラムに参加を希望される方はご一報ください。

• 日本ヴェーダータ協会の行事予定はホームページをご確認ください。

<https://www.vedanta.jp.com/>

2023年3月19日 シュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀会 午後の部
「シュリー・ラーマクリシュナ 師の中の大師」
スワミー・メーダサーナンダ

今日の講義のテーマは、「シュリー・ラーマクリシュナ — 師の中の大師」です。ご存じのように、家主者も僧侶も霊的な話の講義をしますが、霊的な話に関しては、僧侶の方が家主者よりも優れていると思います。僧侶は神のために、俗世間や家庭を放棄しているからです。僧侶は心の全てで神に集中しようとしています。家主者には家族がい

るので、宗教を説くのは少し難しいです。しかし、宗教の師として一般的な僧侶よりもはるかに偉大なのは、神を悟った聖者たちです。さらに最も偉大な師は、もちろんアヴァターラ、神の化身です。

この概念は日本では一般的に理解されていませんが、西洋やインドの人々はこのことをよく知っています。インドで神の化身は「アヴァターラ」として知られており、西洋では「神の子」と呼ばれています。平安、喜び、自由、真実の悟りを私たちにもたらすために、神が降誕なさった存在がアヴァターラです。言い換えれば、化身の中には、神性さの最大のあらわれがあります。神の化身の例としては、シュリー・クリシュナ、仏陀、主イエスが挙げられます。

現代、何百万人もの人々がシュリー・ラーマクリシュナを神の化身とみなしています。いつの時代にもその時代特有の問題がありますが、神の化身はその時代の問題を解決するために降誕します。スワミー・サーラダーナンダ作曲の賛歌の中の 2 行がそのことをあらわしています。

サルヴァ ダルマ スタパカストゥワ
ン サルヴァ ダルマ スワルパカハ
アチャリヤナン マハーチャリヤ ラ
ーマクリシュナヤ テ ナマハ

ここでサーラダーナンダジーはシュリー・ラーマクリシュナのことをアチャリヤナン・マハーチャリヤ（師の中の大師）と呼んでいます。では、霊的な師としてのシュリー・ラーマクリシュナの特徴とは何でしょうか？ 霊性の師としての彼の最大の資質は、信者に平安、喜び、自由、真理の悟りの道を示したことです。彼の霊性には混じり気はなく、純粹で本物の霊性でした。超能力をあらわすようなこともありませんでした。

シュリー・ラーマクリシュナは何の見返りも期待もせず、弟子たち一人ひとりを非常に愛しました。さらに、弟子たちのことを非常に気にかけていたので、弟子たちはそれぞれが、シュリー・ラーマクリシュナは自分のことを最も愛してくださっている、と感じていました。彼が亡くなったあと、ボラノゴルに滞在していた出家弟子たちはそのことで口論したこともあります。ある者が「シュリー・ラーマクリシュナは私のことを一番愛していた」と言うと、もう一人が「そうではない、私のことを一番愛していたよ」と言い返しました。何と面白いことでしょうか。これこそが普遍的な愛の結果なのです。シュリー・ラーマクリシュナは弟子各々の性格を鋭く観察しました。皆それぞれ違っていました。彼はそれぞれの心の中を、まるでガラスケースの中の物を

見るように、はっきりと見ることができました。シュリー・ラーマクリシュナは弟子たちの心を簡単に読み取ることができたので、個々の性質に応じた霊的な教えを与えました。ある人にはヴェーダーンタを実践するように指示し、それが向かない人には二元性〔バクティの道〕の指示を与えました。また、ある人には、ギャーナ・ミシュラ・バクティ（智識と信仰を合わせる道）を指示しました。

シュリー・ラーマクリシュナは子供たちの消化力に応じて魚を調理する母親のようでした。彼は一般的な医者とは違っていました。私たちは病気になると、医者にどう辛いかを説明します。医者は耳をかたむけてくれることもありますが、聞きもせず処方箋を書き始めていることもあります。また、患者の具合がよくなっているか、処方した薬を服用しているか、などを調べることさえしないこともあります。そのような不注意な医者は最悪の医者です。もう一つのタイプの医者は、患者が処方したとおりに薬を服用しているかどうかを尋ね、もし適切に服用していなければ「薬を飲めばよくなるよ」と優しく言います。三番目の最良の医者は、患者がすすんで薬を服用しなければ、無理やり患者に薬を飲ませます。それが最高の医者です。シュリー・ラーマクリシュナは三番目のタイプの医者です。彼は弟子が指示に従っているかど

うかを観ました。もし弟子が指示に従っていなければ、優しく叱ることもあったし、厳しく叱ることもありました。もう一つの重要な点は、シュリー・ラーマクリシュナはご自身が肉体を保持している間だけでなく、肉体を去って精妙な体になった後も弟子を観察し、護り、導いている、ということです。それがシュリー・ラーマクリシュナの特別なことです。

ここで、シュリー・ラーマクリシュナの教えについて話します。彼は、「優しすぎることも、暴力的過ぎることもよくない」と言いました。例えば、バクティだけを実践している偏った信者がいれば、「おまえはどうしてそんなに偏っているのだい？」と言い、そのような信者に対しては、バクティだけでなくギャーナも実践するようにアドバイスをしました。シュリー・ラーマクリシュナは調和の伝道者でしたので、人々が人生において調和した状態になるようにとアドバイスをしました。彼は「どうして一種類の料理しか食べないのだい？ もっと他の食べ物も味わいなさい」と言いました。しかし同時に、それぞれの能力には差があるので、その弟子の能力を注意深く見極めました。

自分の努力だけでブラフマンを悟ることができると思っている弟子がいると、シュリー・ラーマクリシュナは「いや、

お前の努力だけで神を悟ることは不可能だ。神の恩寵も必要なのだよ」と言いました。自己努力と神の恩寵という二つのことは両方不可欠なのです。

シュリー・ラーマクリシュナの有名な声明の一つに、バクタ ハビ、トゥーボーカー ハビ ケーナ？ 「神の信者とは『お人好しのバカ者』という意味ではない」、というものがあります。信者に対しては「いい加減はだめ。整っていないさい」、と期待しました。整っているというのは、家具などが整理整頓されている、ということだけでなく、日常生活がきちんと整っている、ということです。感情と心の奴隷になっている人は整っていません。そのような人は衝動的で、感情に流されて生きています。

次にシュリー・ラーマクリシュナは、信者が注意深くあることを願いました。お釈迦様はアーナンダに、「見張っていないさい」と言いました。それは他者があなたを傷つけないようにするためです。なぜなら、家主者は自己防衛しなければならないからです。子供、老人、病人、貧しい人びと、僧侶など多くの人々は家主者に依存しているので、家主者の収入は自分のためだけのものではありません。ですので、家主者を他者が欺くことができないように、自分自身を守る必要があるのです。ある時、シュリー・ラーマクリシュナは一人の

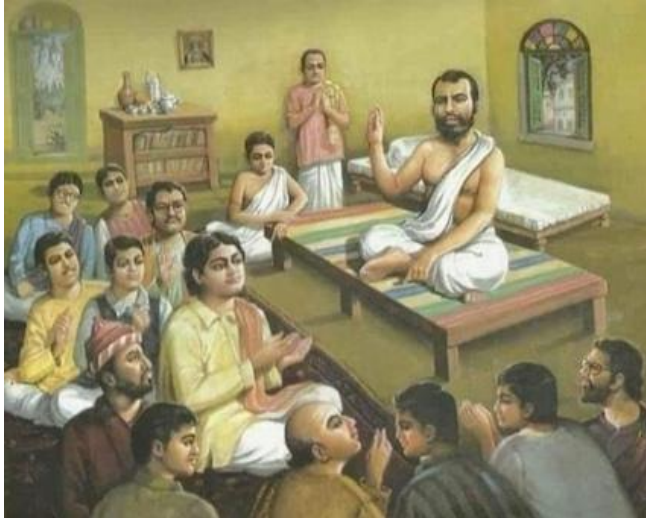
弟子に市場でフライパンを買ってくるように頼みました。弟子は市場に行って店の人に「上等のフライパンを下さい」と言いました。店の人はフライパンをその弟子に渡しました。弟子がそれをシュリー・ラーマクリシュナに見せると、亀裂が入っているのが見つかりました。シュリー・ラーマクリシュナは、「信者とは、だまされやすいお人好しのことでも馬鹿者のことでもないのだよ」と言いました。この教えは特に買い物をする人に役立ちます。

シュリー・ラーマクリシュナは買い物のために、次のようなさらに詳しい実践的な提案をなさいました：

- ・ 買い物をするときには、値段を調べ、店をはしごして、一番買い得なものを探すこと。品質が良いことも確認せよ。
- ・ 「上等なものを下さい」と店員任せにはいけない。自分で商品を徹底的にチェックすること。
- ・ 値引きがされている商品は、値引きの理由を尋ねること。
- ・ たくさん買う場合、無料でおまけをくれるなら、それをもらうことを忘れてはならない。

このことから、シュリー・ラーマクリシュナは意のままにサマーディに没入することできる一方で、一般的な次元に降りて来た時は、平均的な人びとよ

りも注意深かったということが分かります。シュリー・ラーマクリシュナは日常生活をどのように送ればいいかをよくご存じでした。この注意深さは信者にとっても大事なことです。



それから、私たちは聡明であるべきです。何をして何をすべきでないか、誰と交際して誰と交際しないかを識別してください。時には、ある種の人々からは安全な距離を保たなければなりません。また、特に、スマートフォンをどれだけ使うかについて識別すべきです。なぜなら、現在の生活はスマートフォンを使わざるを得ないので、スマートフォンが逆効果にならないように気をつけるべきだからです。

次に、シュリー・ラーマクリシュナがホーリー・マザーに与えた助言があるのですが、それは私たち全員にも関係があります。

ヤカナ イェーマナ、タカナ テーマナ、イェカーネー イェーマナ、セー

カーネー テーマナ、ヤーケー・イェーマナ、ターケー テーマナ

「人物、場所、状況に応じて、臨機応変に行動してください。しかし、原理、原則はしっかりと持っていてください」。つまり鋼（はがね）のように、曲げることはできても壊れないようになるべきです。柔軟性と剛性の両方を併せ持ってください。

人は他者を助けるために、自分の収入の一部を使うべきです。ヤーラアーチャー マーポー ヤーラ ネーイセー ジャポー、これは、「お金を持っている人は他者をたすけるために分かち合うべきであり、貧しい人はジャパのような霊的実践をもっとすべきである」という意味です。

ここでシュリー・ラーマクリシュナが肉体を去られた後にどのように弟子たちに教えたかを示す二つの例を挙げます。インドがイギリスの統治下にあった間、多くのキリスト教宣教師がキリスト教を説くためにインドにやってきました。キリスト教の教えを説くことには何の問題もありませんが、多くの場合、彼らはヒンドゥ教を非難しました。通常、宣教師たちは、寺院の前など、多くの人々が集まる場所で説教をし、そこでヒンドゥ教の神々や女神を批判しました。しかし、宣教師たちは支配する側の人種だったので、人々は

怖くて抗議ができませんでした。

ある時、シュリー・ラーマクリシュナの出家弟子であるスワミー・プレーマナンダがプリに行ったとき、キリスト教の宣教師がジャガンナート寺院のすぐ前で説教しているのに出くわしました。いつものように、宣教師は主ジャガンナートを口汚くののしっていました。スワミー・プレーマナンダはそれに耐えられませんでした。主ジャガンナートはヴィシュヌの別の姿です。プレーマナンダジーはその宣教師を止めることができませんでした。大声で「ハリ ボール！ ハリ ボール！」と唱え始めました。そこに集まっていた人々はほとんどがヒンズー教徒だったので、それに加わり、大声で「ハリ ボール！ ハリ ボール！」と唱え始めました。キリスト教の説教者の演説はこのように中断され、彼はすぐにその場所を去らざるを得ませんでした。その時、そこに集まった人々は、主ジャガンナートの寺院の前で主ジャガンナートを罵ることを止めたプレーマナンダジーのタイムリーな行動に、とても感謝しました。プレーマナンダジーもかなり満足でした。

その夜、シュリー・ラーマクリシュナがスワミー・プレーマナンダの夢にあらわれて、「説教者は私のことを説いていたのに、なぜ止めたのだ？ [シュリー・ラーマクリシュナは自身を主

イエスと一体化しておられた] 明日、説教者を見つけて謝りなさい」と叱りました。スワミー・プレーマナンダは、説教者の住居を苦勞して見つけ、彼に謝罪しました。

別の例：シュリー・ラーマクリシュナは常に「肉欲と金」を放棄することを強調なさいました。そしてご自身は肉欲と金の放棄をしっかりとしておられました。彼の体は金属の感触にさえ耐えられないことは何度も実証されました。治療のためにシュリー・ラーマクリシュナを訪れた有名な医師マヘンドラ・ラル・サルカール博士は、ある時コインを持ってきてシュリー・ラーマクリシュナの手のひらに置いたところ、彼の手のひらが麻痺した人の手のひらのように曲がってしまいました。スワミージーも同じようなテストをしたことがあります。ある日、シュリー・ラーマクリシュナが自部屋から出ているときに、スワミージーはマットレスの下にコインを置きました。シュリー・ラーマクリシュナが戻ってきて寝椅子に座ろうとすると、電気ショックのようなものを受け、寝椅子に触れることもできませんでした。その後寝椅子のマットレスの下にコインが置かれていることが分かりました。

シュリー・ラーマクリシュナが亡くなってからずっと後のことです。ベルル・マトが設立され、スワミージー

もそこに滞在しているときに、ある出来事が起こりました。聖堂には、シュリー・ラーマクリシュナを礼拝するための礼拝器具がありました。信者が礼拝用の銀製の道具を贈りました。ある夜、シュリー・ラーマクリシュナがスワミーの夢にあらわれ、「私は金や銀に触れることができなかつたのに、なぜ銀の道具が礼拝に使うのだ？ お前がここにいるというのに、どうしてそんなことが起こつたのだ？」と尋ねました。真夜中でしたが、スワミーはすぐにお供に聖堂を開けさせて、銀の道具を見つけて、それらを捨てました。

これらの話は、シュリー・ラーマクリシュナが出家、在家両方にどのように教えたかを示すものです。シュリー・ラーマクリシュナの教えは、ご存命の間だけでなく、亡くなった後も続きました。彼の教えはすべてが非常に偉大です。ですので、シュリー・ラーマクリシュナは師の中の大師、と呼ばれているのです。

訃報

皆様

30年近くにわたり、日本ヴェーダーンタ協会の近しい信者の一人であるロニー・ハーシュ氏が4月24日（月）午後3時04分に池袋の自宅にて逝去されました。74歳でした。私たちが何度も訪

れた最後の数か月間は、とても重い病に伏されていました。



ロニーさんはカリフォルニアで生まれ育ち、1960年代にはハリウッドのヴェーダーンタ協会をたびたび訪れ、その聖歌隊のメンバーでもありました。その後、日本に移り、最後まで日本在住でした。彼は多才な方で、特に編集や音楽に秀でておられました。また、日本のスワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会の組織委員会の熱心なメンバーの一人でした。そして、協会の設立以来、月刊の英語のニュースレターの編集者で、約20年間、細心の注意を払って献身的にその仕事をなさつたので、国内外の読者から高い評価を得ました。また、その他のさまざまな方法でも協会に惜しみない支援をしてくださいました。

プロのミュージシャンでもあるロニーさんは、ご自身のアルバムを何枚も出版し、日本ヴェーダーンタ協会のクリスマスイブ祭にはほぼ毎年出席し、讃美歌を歌い、ヴィヴェーカーナンダ生

誕祝賀会や逗子の協会でのシュリー・ラーマクリシュナの生誕祝賀会でもソウルフルな歌で聴衆を魅了されました。

ロニーさんは友好的で陽気で、皆に慕われていました。私生活では誠実な信者で、かなり若い頃からヴェーダーンタ哲学とラーマクリシュナ・ヴィヴェーカーナンダの教えに精通し、真摯に靈的实践をしておられました。

本当にロニーさんのご逝去は日本ヴェーダーンタ協会にとって大きな痛手です。

ロニーさんの魂がシュリー・ラーマクリシュナと共に永遠に安らかに休まれますように。そしてご家族の方々が平安と慰めが得られますように、心よりお祈り申し上げます。

スワミー・メーダサーナンダ

忘れられない物語

「王と絵画」

昔、平安を描いた絵が欲しい王がいた。王は、「誰が絵をもってきててもよい。最高の作品には賞を与えよう」と言った。

近辺のあらゆる高名な画家が王に最高の作品を送ったが、すべての作品の中で一枚の絵が際立っていた。それは、

雪をかぶった山々を背景にした静かな湖の絵で、山の上には透き通る青空があった。湖には山や大空が完璧に映っていた。誰もがその絵を賞賛し、王はその絵を最高作品に選ぶだろう、と確信していた。

しかし驚いたことに、王はそれとは正反対の絵を選んだ。その絵は岩肌があらわになった険しい山を描いた絵だった。絵の中の空は暗くて不吉で、まるで巨大な嵐が起ころうとしているかのようだ。しかし、その絵には一本の小さな灌木が描かれており、その木には鳥の巣があった。その巣の中には、これから起こる嵐に動じることなく、平安のうちにいる鳥がいた。

授賞式を觀ようと押し寄せた人々は、なぜがその絵を選んだのかを王に尋ねた。王の答えはこうだ。

「平安があるとはどういう意味だろうか。暴力や苦しみが無いことだろうか？ 否。それらは常に存在する。平安であるということは、人生がもたらす混乱の中にあっても、落ち着いていることを意味する。それは心の状態である。そなたたちの心が平安なら、周りの状況がどうであれ問題はない。この絵の鳥は、そのメッセージを最もよく伝えている」

物語の教訓

賢者は、平安とは心の状態であることを知っている。困難は常にあなたを襲うだろう。しかし、あなたの心が平安であれば、何が起ころうとも、あなたは穏やかな状態でいられる。

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp

今月の思想

森に入って木を見ると、さまざまな木が見える。曲がっている木もあれば、真っ直ぐな木もあり、常緑樹もあれば、そうでない木もある。君はその木を見て、受け入れる。君にはその木がなぜそうなっているのかが分かる。十分な光を得ようと、そのように曲がったのだと、なんとなく理解できる。だからといって感情的にはならない。ただ受け入れる。君はその木を正しく認識する。

しかし君は人のそばにいくと、そのようなものの見方を全て失う。そして、常に「あなたはこうあり過ぎる」だとか「私はこうあり過ぎる」と言う。そのような批判的な思考が始まるのだ。だから私は、人を木に変える練習をしている。それは、人々をありのままに認めるということだ。

ラーム・ダス

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1